

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年1月31日現在

今月の重点活動

■えだまめ 栽培研修会でGAP推進検討

1月16日～30日にかけて、JAぎふ島・則武・合渡各支店において、JAぎふえだまめ部会員を対象とした栽培研修会が開催された。

農業普及課からは、平成29年産の課題を踏まえて、平成30年産に向けた栽培管理のポイントや県GAP確認制度の周知、GAPの認知度調査などを行った。生産者からは、経営の改善に向けて前向きに取り組みたいという意見が多く出された一方で、取り組みたくないといった意見も少なからず出された。

農業普及課では、今後もGAPの実践による経営改善、えだまめの産地振興、高品質安定生産に向けた支援を継続していく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【栽培研修会の様子】

新たなブランドづくり

■にんじん にんじん残渣分解試験

平成29年産冬にんじんの作付面積は34.8haと、平成28年産の21.7haから1.6倍の面積となった。生産者・関係機関は、長年栽培面積の減少が続いていたため安堵している。

新たな懸念として、冬にんじん収穫後の根などの残渣が分解する期間が短くなるほ場が出てきたため、次作の春夏にんじんの品質に支障をきたすことが考えられる。

その対策として、低温期でも残渣を分解できる資材の試験を開始し、1月19日に関係者で残渣分解状況を確認した。



【分解確認の様子】

(地域支援第二係・魚住雅信)

多様な担い手づくり

■カキ JAぎふ「柿塾」第5回の開催

1月15日、柿産地の担い手育成を目的とした初心者向けの柿栽培講座、JAぎふ「柿塾」の第5回目が開催された。

柿栽培で最も重要な技術である間伐・整枝剪定について、現地ほ場において、農業普及課やJA職員による実演や個別指導を中心に行った。今回は、柿振興会員を含め約15名が参加しており、新規の参加者もあった。

本年度の受講者の中には、新規就農認定を受けた方や新規雇用就農された方もあり、産地の担い手育成に向け、今後も継続して開催支援していく。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【剪定指導風景】

■女性農業経営アドバイザー OGと視察研修会開催

1月16日、女性農業経営アドバイザー視察研修会が開催され、半田市のミツカンミュージアムと大府市の道の駅げんきの郷直売所で研修を実施した。ミツカンミュージアムでは、酢づくりの仕組みからミツカン社の沿革、今後について、楽しく学んだ。

今回は、アドバイザーOGの皆さんにも案内し、現役とOGが交流し、新たなアドバイザーの掘り起こし等についても意見交換した。



【ミツカン研修の様子】

(地域支援第三係・飯沼清敏)

売れるブランドづくり

■水稲担い手 羽島市上中地区の農地集積に向けて

1月9日に、第3回上中地区農地利用集積会議が開催され、水田農業の担い手、羽島市役所、農業委員会、JA、農業普及課が参加し、農地集積の推進に向けた検討を行った。

同地区の集積を進めるため、12月13日に第1回目の会議が開催され、担い手の合意形成に向けた話し合いが行われてきており、今回は各担い手ごとに担当する区域の案が示された。

担い手は、今後の経営を見据え農地集積を進めたいとの共通認識を持ち、提示した区割り案で概ね合意を得ることができた。

今後は、担い手ごとに関係する地権者に農地集積の取り組みを説明するとともに、各担い手からは集積に向けた取り組み状況と課題を出してもらい、承諾を得ることになる。農業普及課では、効果的に集積が行えるよう、関係機関と連携して支援していく。

(地域支援第二係・今井啓司)



【集積会議の様子】

■祝だいこん 反省会の開催

1月18日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの反省会が開催され、生産者など約40名が参加した。

今年は、10月下旬の2回の台風、低温と日照不足等により、生育が緩慢に推移し、近年では長さ、太さとも最も小さくなり、出荷歩留まりは52.1%と低かった。昨年12月の目揃会において、規格表に合わないものは出荷しないよう徹底されたが、規格外品の混入や選果選別の個人格差が散見された。農業普及課からは、今年産の生産と出荷の上での課題を検証し、気象変化に対応した安定生産技術等について情報提供を行った。



【反省会の様子】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

■いちご 苺新アイテム販売検討会開催

1月12日、JAぎふ黒野流通センター会議室において、岐阜市いちご部会青年部9名と全農、JA担当者が出席し、苺アイテム販売検討会を開催した。

検討会では、岐阜県産いちごの約98%がレギュラーパック出荷であるなかで、省力化や付加価値を目的とした平パックの試験出荷の実施について検討し、青年部3名で、日量30ケース、特定の量販店に期間限定で出荷して評価を確認することとした。また、他の商品との差別化を図るため、青年部独自のPOP作成をしたらどうかなどの意見も出された。

今後も、農業普及課では、関係機関と連携し、いちごの販売面における青年部活動を支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【販売検討会の様子】

■くり 剪定講習会開催

1月19日、山県市栗生産組合は、大桑公民館において、剪定講習会を開催した。県中山間農業研究所中津川支所の磯村研究員から、今年度の生育状況や研究成果について情報提供を受け、農業普及課からは、平成30年産栽培暦をもとに、病虫害防除を中心に説明した。

その後、現地の栗ほ場に会場を移し、磯村研究員から、剪定方法の実演指導が行われた。農業普及課では、栗園管理の向上による販売量の増加を目指し、情報提供や組織活動支援を行う予定である。



【剪定講習会の様子】

(地域支援第三係・宮木英有)